

多様な生き方を嘉する世界

——ドラマ『30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい』が導くもの——

春日 美穂

1、はじめに

テレビドラマ『30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい』、通称『チェリまほ』は、テレビ東京、テレビ大阪、テレビ愛知で2020年10月8日から放送が開始されたものである。徐々に放送されるエリアが増え、2021年7月までに地上波では計16局で放送されている¹⁾。国内のみならず、放送開始直後から海外からの反響も多く²⁾、海外での配信をとおして³⁾ その人気は国際規模となった。

本作は、豊田悠原作であり、2018年9月1日に第1話①がpixivコミックとして掲載された⁴⁾。2019年「全国書店員が選んだおすすめBLコミック」に選ばれ⁵⁾、2021年4月現在では累計販売が150万部をこえており⁶⁾、原作の人気も絶大である。テレビドラマ以前にドラマCD化も行われており⁷⁾、原作の魅力がテレビドラマの土台となっている。主なストーリーは、文具メーカー⁸⁾である豊川に勤務する主人公安達清は恋愛経験がなく、地味なサラリーマンであったが、30歳の誕生日を迎えたときに、触れた相手の心の声聞こえるようになる。同僚で、見た目、性格、仕事の能力すべてに優れ、共通項がないと思っていた同期の黒沢優一に触れた際、黒沢が自分への強い恋愛感情を抱いていることを知り、徐々に安達も心動かされていくという展開である。

2020年12月24日にテレビドラマが終了したあとも、2021年2月の

『anan』（マガジンハウス）をはじめとし、様々な雑誌で特集が組まれた。第106回ドラマアカデミー賞の作品賞⁹⁾、第30回年間ドラマ大賞（テレビライフ）¹⁰⁾、第58回ギャラクシー賞マイベストTV賞第15回グランプリ¹¹⁾、第37回ATP賞テレビグランプリ優秀賞を受賞している¹²⁾。番組終了後もその人気は衰えず、むしろ加速する勢いである。主人公安達清と、安達に恋する黒沢優一を演じた赤楚衛二、町田啓太も人気を博し、ドラマ、キャストともに支持を集めた作品となった。

テレビドラマ『30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい』（以下、『チェリまほ』）は、なぜこれほどまでの支持を集めたのだろうか。

本稿では、原作とドラマの描写の検討やドラマが社会に与えた意義を検討することをとおし、本作の支持の所以が多様な生き方を肯定するものであったことを述べる。なお、インターネット記事や雑誌、イベント等で原作者、スタッフ、キャストが作品について多く語っているが、作品論として考察するために、それらのコメントについての言及は必要最低限にとどめて考察したい。

2、原作との違い

ドラマ版『チェリまほ』について検討するために、原作とドラマとの大きな相違点を整理する。細かい点はいくつもあるものの、大きな相違点として以下が挙げられる。

- ①黒沢が安達に恋をしたのが、原作は安達が魔法使いになった誕生日から数ヶ月前であるのに対し（1巻）、ドラマは新入社員時の7年前に遡る（7話）。
- ②原作で安達と黒沢は冗談を言い合ったり、飲みに行ったりしているが（1、2巻）、ドラマでは黒沢は安達と積極的にかかわることなく見守っている（1、2話）。
- ③同僚の藤崎は原作では腐女子の設定だが（3巻）、ドラマでは二人の関

- 係に気づいて応援している。恋愛を重視していない。特に安達のことをよく理解している。黒沢も藤崎には心を開いている(4話、10話、12話)。
- ④ドラマで、安達の親友である柘植が付き合うことになる湊がゲイの設定である(9話)。
- ⑤原作では、安達が魔法を使えることを告げても黒沢はすんなり受け入れるが(5巻)、ドラマでは、安達が自分の魔法が消えた際、黒沢と関係を築き続けることができるのか不安になり、黒沢も安達を苦悩から解放するために別れを選ぶ(11話)。

以上のことをふまえてまず、原作とドラマで大きな相違がない点を確認する。原作とドラマで大きな相違がなく、また、この作品の問題提起となるのが王様ゲームのエピソード(1巻、ドラマ3話)である。王様ゲームによって黒沢と安達がキスをするよう命令されるが、安達の拒否感を黒沢が感じ取り、その理由を同性同士によるものであると黒沢が解釈するという内容である。同性同士の恋愛の心理的障害について描いたエピソードである一方で、安達は同性同士である点について、そしてその相手が黒沢である点について拒否感を覚えなかったことで、その後の展開の核となっていく。また、原作では社員旅行でのこととなっている¹³⁾ものの、藤崎を安達が助けようとして結果的に黒沢に助けられたエピソードは、黒沢もまた安達を思ううえでいろいろと悩んだり、自信を持てなかつたりしていることを安達を知るきっかけとなっている(2巻、4話)。

設定だけではなく、「ああ もう ずるい これ以上好きにさせて どうしようっていうんだよ」(2巻、9話。原作は「そうやってまた俺に期待させて」も入っている)、「心に触れられた気がした」「黒沢の心に触れるために俺は魔法使いになったのかもしれない」(3巻、7話)、「安達も俺のこと好きなんて夢だったんじゃないかって思っちゃって」(4巻、8話)など、使用場面が違うことはあるものの原作の印象的なセリフがドラマでも使われており、原作のエッセンスが多くドラマに生かされている。

一方で、ドラマ独自の設定が、原作とは違うドラマ版ならではの魅力を引き出している。その顕著なものが前掲①の、黒沢が安達に恋をした時期の設

定である。原作の黒沢は、安達に恋する前にも女性とも一定程度恋愛をしてきたことが描かれる（4巻）。しかし、ドラマの黒沢は、就職してからの7年間をずっと安達への片思いで過ごしてきたという設定である。黒沢は「モテオブモテをきわめた」（1話）と安達から認識されている。実際「モテ」てはいたかもしれないが、一途に安達を思う7年間を過ごしてきたとされている。しかも原作では黒沢が安達への恋に落ちたきっかけが1巻で描かれているのに対し、ドラマは7話になってやっと視聴者に明かされるという展開になっており、それ以前までの黒沢の安達への思いや、妄想の持つ意味の重さが視聴者に強く伝わる構成になっている。

恋に落ちるきっかけは原作、ドラマともに、接待の場で黒沢が女性社長から飲酒を強いられた後「休めるところに行く」ことを提案されてそれを反射的に強く拒絶してしまったこと、また、それを上司たちが「顔だけが取り柄」であるから受け入れるべきだと話していることを聞いてしまったことに端を発している。自嘲気味に「顔要員」である自分のことを語る黒沢に対し、安達が、黒沢がいかに努力しているかを理解して黒沢本人に伝え、「弱ってる所見るの新鮮で、なんかいいな」と言ったことが「はじめて心に触れられた気がした」という黒沢の気持ちを呼び起こし、それが恋に落ちるきっかけとなっている。黒沢のそのときの心内語は基本的に原作もドラマも同じ内容ではあるものの、ドラマ版は7年という歳月が加味されることで、黒沢の孤独と苦悩（前掲②）を際立たせる効果を果たしている。それゆえに同話で安達が黒沢に自分の思いを伝える場面がより効果的に機能している。

見た目だけを評価され、自分の本質を見てもらうことができないと苦しむ黒沢¹⁴⁾、自己評価が高くない安達というそれぞれが抱える心の闇は原作にも描かれているが、ドラマはその面が強く打ち出されており¹⁵⁾、視聴者が二人の幸せを祈る心情を呼び起こしやすかったことが、ドラマの支持につながっていることは間違いない。

四

原作と設定の違うキャラクターとして二人の同僚である藤崎の存在が挙げられる（前掲③）。藤崎は原作では腐女子として描かれており、安達のことを「好みの受すぎる」（2巻）ととらえるなど、黒沢と安達の間を仮想している。しかし、ドラマの藤崎は、恋愛に興味を持っていないことを隠し、

「普通を演じる」ことで周囲にあわせて生きていと設定されている(4話)。安達は、自己肯定感が低いことが描かれるが、一方で、自分の部屋を好きな文具で飾ったり絵を描いたりするなど、それなりに人生を楽しんでいることも伝わる。そのことは、藤崎に対する「いや、みんな恋愛の話好きだなとは思いましたが、別に人生それだけじゃないっていうか、俺、恋や愛がなくても毎日それなりに楽しいっていうか」(4話)というセリフにも表れており、その言葉が藤崎を救っていることが描かれる。その後藤崎は、黒沢が唯一安達とのことを相談できる人物となり(12話)、前掲⑤のように黒沢との関係を終わらせた安達の背を押し、二人のために花火をあげるという二人の理解者、支援者となっていく。藤崎とともに花火をあげた後輩六角も、黒沢と安達を先輩として慕い、特に、安達が自信を持つ要素のひとつとなっている。恋愛だけではなく、安達と黒沢がそれぞれの抱える闇を乗り越え、互いを、そして周囲の理解者を得ていく様子が丹念に描かれるのである。

恋をしてもしなくても、その相手が誰であってもいい。相手の手を離してしまってもまた手をとることができる。自分が少し1歩を踏み出すことで、周囲との関係を少しずつ変えていくことができる。ドラマ『チェリまほ』は、そうしたポジティブメッセージによって綴られている。それは決して強制的なものではなく、ささやかなものでいい、ささやかな毎日のなかに輝きがあるのだということを見る者に訴える。ドラマ版『チェリまほ』が支持を受けた理由の一つであろう¹⁶⁾。

3、『チェリまほ』が社会に与えた意義

以上のようなドラマ全体の魅力の中でも核をなすのは安達と黒沢の関係である。テレビドラマにおいて男性同士の恋愛を描いた先駆的存在として『おっさんずラブ』(テレビ朝日 2018年4月～6月)¹⁷⁾があげられる。映画化や第2シーズンの放送など、絶大な人気を誇ったドラマである。また、『きのう何食べた?』(テレビ東京 2019年4月～6月)¹⁸⁾も男性同士の日々の生活を描いた作品としてスペシャル版が放送され、2021年秋には映画も

公開となっており、やはり絶大な人気を集める作品となっている。

両作品と『チェリまほ』の大きな相違点として、同性愛者を起点とした物語ではないということがあげられる。『おっさんずラブ』の牧は春田の以前に武川とも交際しており、同性愛者であることが示唆される。『きのう何食べた?』は笥、矢吹ともに同性愛者であることを自認している。しかし、『チェリまほ』の黒沢は「安達」という存在に心が惹かれたのだという描かれ方がされている。厳密な意味では、テレビドラマでは黒沢の過去が明確には描かれておらず（7話で学生時代に女性から告白されて「どうして?」と問いかける場面があるが、黒沢の自分の外見だけを人は見ているという葛藤を表現するものとして描かれている）、ドラマだけでは黒沢が同性愛者か否かはわからない。しかし、原作では黒沢が過去に女性と交際していたことや男性の肉体を性的に見たことがないこと（2巻）が描かれており、原作を前提としたドラマもまた、黒沢を同性愛者としては描いていないといえよう¹⁹⁾。そのことと、原作と異なる7年の黒沢の片思いという設定が、相乗効果として黒沢の深い思いを描き出すことに成功し、黒沢の思いが報われること、安達と黒沢が幸せになることに対する視聴者の祈りにも似た思いが、本作への支持の土台を構成している²⁰⁾。

nonny (2020) は、『チェリまほ』が終了しても「“ロス”の感情は生まれなかった」としたうえで、「『チェリまほ』のキャラクターたちがどこかで息づいて幸せに暮らしているような親近感と、そんな世の中であって欲しいという願いが込められていたのかも知れない」²¹⁾と述べる。安達を演じた赤楚衛二 (2021) も「今だって安達と黒沢は会社で普通に生きているかも知れない」²²⁾と述べており、本作の魅力として安達と黒沢に実在性を感じることができ、二人の物語のその後の存在を人々が共有できるという点が挙げられる。一方で、実際の二人の物語のその後とは、たとえば二人が同居を考えた際、安達と黒沢は勤務先が同じであることから、住所変更を届けることで同居を勤務先に明らかにしなければならないという関門がある。もちろんコンプライアンス管理がなされている企業であれば、社員の個人情報漏れることや個人のプライバシーに踏み込むことはないと思いたいのが、現実問題として物理的・心理的な関門となることは確かであろう。

12話の万年筆のやりとりは、黒沢が跪く、万年筆が指輪の代替品であることが示される点から、実質的なプロポーズとして機能している。しかし、当然のことながら結婚、プロポーズという言葉は使われることはなく、「俺とずっと一緒にいてください」という言葉になっている。それぞれの心に抱える闇を克服しあいながら、互いへの深い愛情を持つ二人が「ずっと一緒に」いようとする際の選択肢として「結婚」がないことに気づかせられる。二人なら支え合いながら、ひとつひとつ関門を突破し、日本の現状でいえばパートナーシップ制度なども十全に調べて幸せを追究していくのだろうという信頼感も抱けるが、一方で、なぜこの二人が結婚できないのか、というシンプルな疑問を見ている者に呼び起こす。もちろん、ドラマのなかで安達と黒沢が「結婚したい」と思っていることは明示されていないため、本人たちが結婚したいと考えているかどうかはわからない。しかし、プロポーズを思わせるやりとりになっているからこそ、二人が制度としての結婚を「選択する権利」すら持ち得ないことに対する現実の問題点を浮かび上がらせることに結果的に成功している²³⁾。なお、2021年10月に発刊された原作が、こうした問題を正面から取り扱っていることについては5節で述べる。

ワン・ペイティ（2019）は、アジアで初めて同性婚が合法化した台湾において、多くのBLファンが同性婚支持を表明したことを報告している²⁴⁾。また、藤本由香里（2019）は、『おっさんずラブ』について、「この作品こそが、日本においてBL等の創作物と現実のLGBTとの溝を埋めるミッシングリンクになりうるのではないか、ここから何かが変わり始めるのではないか」としたうえで、『おっさんずラブ』や『きのう何食べた?』のように男性同士の幸せな日常生活が描かれることが、マイノリティは不幸であるという「呪い」を溶かすものとして機能していることを指摘する²⁵⁾。

『チェリまほ』はこうした潮流のなかで、性別をこえてひとりの人に恋することの素晴らしさ、そして、恋をしなくてもそれぞれの人生は素晴らしいものであることを前面に打ち出して支持を得た。本作によって、恋し、ともに過ごすことに性別は関係ないことを新たに意識した視聴者も多いといえよう。また、恋をしてもしなくても自分らしく生きることの価値を改めて見だし、勇気を得た視聴者も多いと考えられる。本作によって心動かされた人々

が、自分の身の回りの人々の多様な生き方を嘉すること、そうしたことの広がりによって、多様な生き方を社会全体で肯定し、それが必要な法整備にもつながっていく可能性さえ生んだ作品となっている²⁶⁾。

4、無理解な年長者と女性たち

前節で述べたように、『チェリまほ』が社会に与えた影響は大きい。一方で、手放しにすべてを賞賛できるわけではないことも確認しておきたい。それは、ドラマ版『チェリまほ』における安達と黒沢よりも年長の人々と、藤崎を除く女性たちの描かれ方である。

良いところがあることも描かれるものの、安達のプライベートに踏み込んでくる浦部はおそらく安達、黒沢より数歳上の30代半ばの設定であろう。3話で王様ゲームの王様となる女性は、原作では安達黒沢より年上に見えるような描写ではないが、ドラマでは明らかに年上の女性として設定されている。女性となりではやす男性も年長者である。5話でモンブランを出されないことに激高する社長は、原作よりもその理不尽ぶりが強調されている。黒沢の安達への思いの始発となる7話の女性社長もまた、原作よりは年上にみえる女性がキャスティングされ、よりハラスメントの度合いを増して描かれている。7話は女性社長のハラスメントに目がいくが、一方で、そのハラスメントから黒沢を守るどころか、黒沢を責める上司の存在も際立っている。万が一女性社長の黒沢へのささやきが聞こえていたうえであるような対応をしていたとすれば、上司の罪は相当に重い。

安達と黒沢の関係の転機となる、安達の商品企画コンペへの参加はドラマ独自の展開であるが、その際、プレゼンテーションの流れを無視して質問をし、一方的にやめさせようとした女性部長もまた40～50代と思われる設定である。『チェリまほ』は30歳前後のスタッフ、キャストを中心に制作されており、彼らにとって年長者とはこれほど無理解でぶしつけな存在であるのだろうかと考えさせられる描写である。原作では朝比奈や安達の働きを評価する上司など、二人をサポートする先輩や上司が描かれるのに対し、ド

ラマではそうした存在が描かれず（浦部はプレゼンを行う安達を応援したり慰めたりしていることは描かれる）、年長者は概ね無理解な人物として描かれていることは本作の特徴のひとつである。

また、安達と黒沢の同僚である女性社員の描き方も、わからないことをあえて黒沢に聞く（1話）、安達と藤崎を取り持つような発言をする（4話）、就業中にチョコレートを持って押しかける（スピンオフバレンタイン編）など、配慮に欠けた存在として描かれる。彼女たちの存在が黒沢の「モテオブモテをきわめた」（1話）一面を引き出す役割を果たしていることは理解できるが、ミソジニーを感じさせる描写である。互いの内面にひかれあう男性同士の対極として、見た目やイベント、社会通念どおりに動く、主体性なき若い女性たち、という構造になっている。

本作の脚本を担当した吉田恵里香（2020）は、当事者ファーストについて語っているが²⁷⁾、安達と黒沢の思いを丹念に描く一方で、それにより誇張して描かれた年長者と女性たちの扱いは、「当事者ファースト」とはいえない部分が残っている。もちろん、すべてに配慮を行き渡らせるということは難しいことではあるが、二人の関係性を際立たせるためのいわば仮想の敵として、年長者、女性たちが選ばれたこと、特に女性の描写についてはミソジニー的視点があることは、重要な問題として確認しておきたい。

5、現実の問題と対峙する

以上、ドラマ版『チェリまほ』について検討した。本節ではドラマ終了後の2021年4月に発刊された原作7巻、2021年10月に発刊された原作8巻について検討したい²⁸⁾。

原作では安達が長崎に転勤するという大きな転機が訪れる（6巻）。それは黒沢と物理的な距離が離れることでもあった。安達は、一度は黒沢のことを思い、転勤を断ろうとするものの、黒沢の後押しもあり転勤する。そのなかで肉体的な関係を持ったことにより安達が魔法を失い、言葉できちんと互いの関係を築くことを模索するようになる。黒沢は転勤から帰京した後二人

で暮らすことを提案し、安達に指輪を渡す。ここで安達は「プロポーズみたいだな」と述べており、ドラマでは回避された結婚のイメージが明確に物語に持ち込まれる（7巻）。

安達は転勤先での仕事に励む理由として、帰京後に黒沢と共に住むことで会社にふたりの関係話を話さなくてはならないことを想定し、その際に「そう簡単に異動させられない会社に必要な人間になっときたいって思って」と述べる。安達がパートナーシップ制度について調べているコマも挿入され、「これから先もずっと一緒に暮らすってどういうことか 俺なりに色々勉強したり考えて」とも述べている。

そこから双方の親に互いを紹介している。安達の家族は黒沢との関係をすぐに受け入れ、黒沢の家族は一度は安達との対面を拒否するものの最終的にはふたりの関係を認めている。現実でこれほどスムーズに受け入れられるパターンはそれほど多くはないかもしれないが、作品内では双方の親が、自分の子供のことをよく理解したうえで、その子供が選び、あるいは変化したきっかけに互いがあるのなら受容するという形になっている。30歳まで童貞だったがゆえに同僚の好意を知ってしまうというラブコメディを始発として、8巻に至ってもラブコメディのエッセンスは残しつつも、現実の同性カップルが直面する問題を避けずに正面から扱った意義は大きい。

『きのう何食べた?』18巻では、主人公寛史朗の遺産の問題が描かれる²⁹⁾。寛が、寛の死後、パートナーである矢吹賢二に遺産を譲るための自筆証書遺言の作成を検討していることを伝え、養子縁組の可能性についても言及する。その際に泣きながら矢吹賢二が言う「大体 俺 家族って言ってもシロさんと親子になりたいわけじゃないもん…」という言葉は、読む者に現実について深く考えさせるものとして機能している。BL作品³⁰⁾が男性同士の性愛だけでなく、同性同士で生きていくことについての現実を提起する内容に発展していることは重要である。

BLの享受の在り方として、阿部裕華（2021）が「BLは創作物として割り切って楽しむことが重要ですからね」³¹⁾と述べるスタンスはひとつの事実である。一方で、守如子（2020）が、

生身の人間にファンタジーを押し付けないために、対面状況においては、

ゲイやレズビアンを排除しないこと、そして逆に『自分は理解があるから大丈夫』だと過信しないこと。また、自分の言論が、単なるファンタジーに関する語りであっても、他者を追い詰めるものとして受け止められないか吟味すること。それらを忘れずにおけば、BLは現実を生きるゲイやレズビアンとも新たな交流の輪を広げてくれるまたとないメディアとなるのではないか³²⁾。

と指摘することは示唆的であり、『チェリまほ』もこうした機能を果たす作品のひとつとしてある。ドラマファンが原作も読んだという例は一定程度あると考えられ、ドラマの魅力から原作の魅力を味わい、また、原作の問題提起について考える人が増えることで、現状の社会の在り方について考え、意識する人が増えることに確実に寄与しているといえるだろう。

6、おわりに

以上、ドラマ版『チェリまほ』を中心に検討してきた。原作はまだ連載が続いている。ドラマもふたりのその後を思わせる余韻を持った終わりとなっているため、人々の心の中には安達と黒沢がいて、ふたりの幸せを祈る日々が続いていく。

溝口彰子(2015)は、BLの「進化」について、「現実をリードする世界を描くようになった」と述べる。以下の溝口の指摘は、『チェリまほ』が支持される現状を考えるうえで示唆的である。

現実にはありえない「奇跡の恋愛」や「究極のカップル神話」を美男子たちに代理で演じさせて楽しむところから出発しつつ、そういった楽しみと並行して、自分たちの「代理人」であり「自身」そのものであるキャラたちが幸福に生きるためには、彼らの周囲がどのような人々であればいいだろうか、ひいては彼らの暮らす社会がどのようなものであればいいだろうか、誠実に想像した結果、現実よりも同性愛者の権利が擁護され、性の多様性が尊重される世界が描かれるようになってきたこと³³⁾。

安達も黒沢も、自分たちが男性同士の恋に落ちたことについて、戸惑いは感じつつも³⁴⁾、ゲイや同性同士の恋を差別するようなことはない。ふたりの関係を知る藤崎はそれをごく普通に受け止め応援する。六角もまた、湊のことを応援している。現実世界よりもそれぞれの多様性が尊重される世界なのである。西森路代(2021)は、主にドラマにおけるこれからの恋愛の描かれ方について、「規範的とされている価値観でもなく多数派ではない人たちの関係性をどのように描くのか、というのも、これからの恋愛モノを考える上で重要な視点かもしれませんね」と述べる³⁵⁾。

一方で、河野真理江(2021)が「日本においては、ゲイがゲイとしてのいくつかのステレオタイプを、マスメディアを通じて確立している。対してレズビアンは、そのステレオタイプそのものを未だ獲得していない」としたうえで、テレビドラマと映画は同性愛表象を描くという点ではステレオタイプという大衆化の過程を経るしかなく、ホモフォビア、ミソジニー、そしてフェムフォビアの問題に日本の映像メディアが直面していることを指摘している³⁶⁾。その点において、『チェリまほ』はそうした問題を切り崩すという段階には至っていないかもしれない。しかし、国内のみならず海外にもその影響力が及び、新たな視聴者層を獲得したと考えられることは、生き方の多様性やそれをめぐる社会制度を人々に考えさせるという点で、大きな意義があったといえよう。

『チェリまほ』が尊重するのは恋愛だけに限らない。夢をかなえられなかったことを語る六角に対し、安達は新しい夢をみつけて頑張っていることを評価する(6話)。一方で安達はそもそも夢がないと自認しており、黒沢はそうした点からも自己肯定感が低い安達をそっと励まし、応援する。恋をしてもしなくても、夢がかなってもかなえられなくても、夢があってもなくても断罪されることがなく、多様な生き方を優しく肯定する世界である。その意味で、『チェリまほ』は現実世界の先をいく世界である。ここに本作が支持を得た所以がある。そして、これだけ本作が支持されることは、人々がそうした世界を支持している証であるといえよう。本作を愛し、支持する人々が広がることは、すなわち、人々の多様性を優しく受け止め、応援する人々が増える可能性をも秘めている。本作がコロナ禍のなかの2020年に放映され

た意味は非常に大きい。

註

- 1) テレビ東京「木ドラ 25 30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい」
<https://www.tv-tokyo.co.jp/cherimaho/onair/> (2021年11月5日閲覧)
- 2) 「(フォーカス オン)『30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい』
海外BLファンから反響」『朝日新聞』2020年10月26日朝刊。
- 3) マイナビニュース「赤楚衛二&町田啓太『チェリまほ』、世界中
で配信!台湾ではあの名作超えの人気」[https://news.mynavi.jp/
article/20201221-1603936/](https://news.mynavi.jp/article/20201221-1603936/) (2020年12月21日) (2021年11月
5日閲覧)。2021年2月27日には日本に先行してタイ主催のイベン
トが行われた(註1公式サイト)。日本でもBlu-ray発売イベントが行
われた。
- 4) pixiv コミック「30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい」[https://
comic.pixiv.net/works/5100](https://comic.pixiv.net/works/5100) (2021年11月5日閲覧)。作品のはじま
りは豊田悠のツイッターから発信されたものである。
- 5) 日本出版販売株式会社「『全国書店員が選んだおすすめBLコミッ
ク2019』×『BLアワード2019』ランキング発表!」[https://www.
nippan.co.jp/news/bl2019/](https://www.nippan.co.jp/news/bl2019/) (2021年11月5日閲覧)
- 6) 豊田悠ツイッター 2021年4月7日 [https://twitter.com/toyotayou/
status/1379755660024238081](https://twitter.com/toyotayou/status/1379755660024238081) (2021年11月5日閲覧)
- 7) フロンティアワークス「ドラマCD『30歳まで童貞だと魔法使いになれ
るらしい』<http://www.fwinc.co.jp/goods/52435/> (2021年11月5日
閲覧)
- 8) 原作の豊川は生活雑貨を扱うチェーンストアを運営する企業である(6
巻)。ドラマでは文具メーカーに改変され、安達の自宅に好きな文具が
飾られることで、安達の人物造型と関わる設定となっている。
- 9) 『ザテレビジョン首都圏関東版2/26号』2021年。
- 10) 『TV LIFE』第39巻6号 2021年。
- 11) NPO法人放送批評懇談会「ギャラクシー賞受賞作」<https://www.>

- houkon.jp/galaxy-award/ (2021年11月5日閲覧)。放送批評懇談会の機関誌である『GALAC』は2021年5月号(623号)に「『チェリまほ』の魔法とは？」として特集も組んでいる。
- 12) 一般社団法人全日本テレビ番組制作者連盟「第37回 ATP 賞テレビグランプリ」http://www.atp.or.jp/awards/atpaward/award_037.php (2021年11月5日閲覧)。
 - 13) 原作の社員旅行のエピソードは、黒沢が安達に対して性的な魅力を感じることに気づいたり、子供を助ける安達を見て安達が将来女性と結婚することを予期したりするなど、ドラマよりも同性同士の関係に深く踏み込んだエピソードとなっている。
 - 14) 北村匡平(2021)は、ルッキズムが、複雑な問題が絡み合っていることが映像化された例として『チェリまほ』に言及している(「男性身体とルッキズム」『現代思想』第49巻第13号)。
 - 15) 川井悠一郎・細谷陽(2021)は、安達と黒沢の関係に「甘え」の相互依存があることを指摘している(「BLドラマ『チェリまほ』が映し出す男性同士の「甘え」—「甘え」を内包した関係性の追体験—」『社会論集』第27号)。
 - 16) 原作者の豊田悠(2021)は、「ネガティブなレッテルを貼られてBLのイメージを悪くされるのも、同性愛や童貞を笑い物にされるのも絶対嫌でしたし、BLや童貞を揶揄するような表現はしないでくださいとだけはお願ひしました」「スタッフもキャストの皆さんもしっかりした倫理観をお持ちの方ばかりで、本当に丁寧に各方面に気を配りながら作ってくださいなと思います」(「AUTHOR'S VOICE」『GQJAPAN』208号)と述べており、ドラマ制作の背景がうかがえる。
 - 17) テレビ朝日「おっさんずラブ」<https://www.tv-asahi.co.jp/ossanslove/> (2021年11月7日閲覧)
 - 18) テレビ東京「きのう何食べた？」
<https://www.tv-tokyo.co.jp/kinounanitabeta/> (2021年11月7日閲覧)
 - 19) 黒沢役の町田啓太(2020)は、「黒沢は同性が好きなのではないと思うし、むしろ初めて男性で好きになったのが安達だったということが肝

になってくるのかなと考えているので、その描写は丁寧に演じたいなど思っています」（『TVガイド dan』 vol 32）と述べており、制作側のスタンスも原作と同じであったといえる。

- 20) 堀あきこ（2010）は「多くのヤオイの登場人物は、その相手・ただ一人だけが恋愛対象となる男であり、それ以外の恋愛対象は女に向かう異性愛者、という設定なのである。すなわち、異性愛者である男性が『ただ一人』の男性とだけ恋愛関係になるという設定なのだ」（「ヤオイはゲイ差別か？—マンガ表現と他者化」『セクシュアリティの多様性と排除』明石書店）と述べており、黒沢のパターンとあてはまる。溝口彰子（2015）は、定型 BL の根幹をなすのが、「『永遠の愛の神話＝究極のカップル神話』幻想」（『BL 進化論 ボーイズラブが社会を動かす』太田出版 p60）であるとする。『チェリまほ』の根幹にもその幻想があるといえよう。溝口は、

「俺はゲイなんかじゃない。君だけが好きなんだ」という決まり文句は、今度は「男だから好きになる（本物の）^{アブノーマル}ゲイは、変態だ」という意味をおびることになる。つまり定型 BL は、ホモフォビアを前提とするだけでなく、さらにそれを再生産する、二重のホモフォビア言説装置なのだ。（前掲書 P60）

と述べる。ドラマ版『チェリまほ』では黒沢の過去の恋愛が描かれませんが、原作版には黒沢が過去に女性と交際していたことが描かれる（4巻）ことから、溝口の指摘があてはまる。一方で、後述するように『チェリまほ』は、定型 BL というよりは、同じく溝口が述べる進化した形の作品として評価することができるといえよう。なお、やおい、BL の語の定義については、藤本由香里（2020）「少年愛・JUNE / やおい・BL—それぞれの呼称の成立と展開」（『BL の教科書』有斐閣）に論考がある。

- 21) nony 「【ゆとりレビュー】『チェリまほ』むき出しにされる令和恋愛の本質 ～もう、ロスとは言わせない～」https://tsutaya.tsite.jp/news/drama/41574651/?sc_cid=tsutaya_a99_n_adot_share_tw_41574651（2021年11月7日閲覧）

- 22) ミラーメディア「【獨家專訪 1】《30 歳處男》赤楚衛二演安達太入戯 『頭

髪跟著亂翹』愛上煎蛋捲」https://www.mirrormedia.mg/story/amp/二〇二一-0208insight001/?__twitter_impression=true (2021年11月7日閲覧)

- 23) なお、2話において黒沢に好意を寄せられていることを安達が柘植に話すこと、8話において黒沢の許可を得ずに黒沢とつきあっていることを安達が柘植に話すこと、9話において湊がゲイであることを六角が柘植、安達、黒沢に話すことについては、本放送時よりアウトティングではないかという声が視聴者からあがっている。このことは、脚本の吉田恵里香(2020)も言及しており(mi-mollet「横川良明の『エンタメから見る今』きょう何考える?“チェリまほ”脚本家が語る、面白さと配慮の共存方法『わかる人にだけ、では世界は変わらない』」<https://mi-mollet.com/articles/-/27046?page=2> 2021年11月7日閲覧)、アウトティングについての視聴者の意識の高まり、また、それにより他視聴者、そして制作者も意識が変化するという効果が見られる。
- 24) ワン・ペイティ(2019)「抑圧か革命か?同性婚合法化運動に対する台湾のBLファンコミュニティの反応」(『BLが開く扉 変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社)。
- 25) 藤本由香里(2019)『『おっさんずラブ』という分岐点』(『BLが開く扉 変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社)。
- 26) 『チェリまほ』が理想の世界を描いているとすれば、同性同士のカップルがぶつかる精神的、社会的問題について描いた作品として2020年1月に公開された『his』(<https://www.phantom-film.com/his-movie/> 2021年11月8日閲覧)が挙げられる。『his』のコピー「好きだけではどうしようもない」は、同性同士のカップルが置かれる困難さを端的に示している。
- 27) 前掲註23と同じ。
- 28) 原作6巻はドラマ終了とほぼ時を同じくした2021年12月に発刊されており、ドラマのベースとなっているのは1～5巻までの内容である。
- 29) よしながふみ(2021)『きのう何食べた?』18巻(講談社)
- 30) 藤本由香里は註25において『おっさんずラブ』『きのう何食べた?』は「BL

ではないだろう」と述べている。一方で作者であるよしながふみ（2017）は「青年誌に掲載されていますから、正式にジャンルが何かと言われたら、『青年漫画です』ということになると思います。……でも、私は『何食べ』はBL誌に掲載してほしいんです」とし、「BL誌に掲載していたら、『何食べ』はBL作品だったと思います」と述べている。そのうえで、「結果的に青年誌に掲載していただけたために、違う方向性で多くの方に読んでいただけたので、それはそれでよかったのだと思います」と述べている（溝口彰子「漫画家よしながふみさんとの対話」『BL進化論 [対話篇]』宙出版）。青年誌への掲載やドラマ化は、BLになじみがなかった人々が作品に触れる機会が増える効果がある面は着目される。

- 31) 石橋悠・阿部裕華（2021）「めくるめく『BL』の世界—『ボーイズラブ』の超基本からおさらいします」（『BL塾』三笠書房 p 19）
- 32) 守如子（2020）「生身の人間にファンタジーを押しつけないために」（『BLの教科書』P237）
- 33) 前掲註 20、p254。
- 34) 王様ゲームでキスを求められた際、安達は「男同士ですよ」と言い、黒沢も「いやだよなあ、男同士なんて」と述べている（3話）。また、安達に想いを告げられた際に黒沢は、「本当に、いいの」と述べており（7話）、戸惑いながらふたりの関係を選択していく様子が描かれている。
- 35) 西森路代（2021）「連続対談 `恋愛、の今は 第1回 ドラマの中の恋愛はどう変わってきたか？ゲスト柴崎友香」（『文学界』第75巻第11号）。西森は同対談のなかで、『チェリまほ』のプロデューサーである本間かなみに「一貫して多様な形の恋愛を描こうとする意志を感じます」としている。
- 36) 河野真理江（2021）「映像メディアにおける同性愛表象の現在」（『現代思想』第49巻第10号）。なお河野は『おっさんずラブ』は男性どうしの恋愛を描きつつもゲイ・ドラマではなく、BLドラマですらないと指摘する。この指摘をふまえれば、『チェリまほ』もまた、BLドラマとしてカテゴライズされる作品ではないといえる。また、藤田真文（2021）は、日本のドラマの「LGBTQ」について、ゲイが登場するドラマは多いが、

LTBQ について扱われることの少なさを指摘しており（「21 世紀の断片～テレビドラマの世界 第 3 回『LGBTQ について』『GALAC』624 号）、日本における映像作品の LGBTQ の描き方は現在発展途上にあるといえる。一方で、堀あきことトーマス・ボーディネット（2021）が対談のなかで、社会が LGBT フレンドリーだから BL ドラマが作られるのではなく、あくまで稼ぐ手段として女性消費者を狙っているものでありつつも、視聴者が幅広いテレビドラマにおいてゲイの恋愛が描かれることで、結果的にゲイ男性をエンパワーメントすることになっていく（堀あきこ、トーマス・ボーディネット「DEEP DIVE」『GQJAPAN』208 号）としていることは示唆的である。さまざまな問題を抱えながらも、描かれな
いよりは描かれることが社会を動かす一端となっていく効果がある。